

2023年1月22日（顕現後第3主日、A年）

牧師メッセージ

「力ある言葉」

（マタイによる福音書4:12-23）

司祭ヨセフ太田信三

ガリラヤ湖を歩いていた主イエスが、シモンとアンデレという兄弟、続いてもう一組の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとヨハネにも声を掛けました。それは「人間をとる漁師にしよう」という、驚くべき声掛けでした。とても信じられないような言葉ですが、彼らは自分の生活を成していた漁業道具、そして家族を残したまま、すぐに従いました。常識的に考えれば選択し得ない決断です。

マタイ福音書はこの出来事を非常に淡々と記しています。なぜなら、この箇所では著者は、「主イエスの弟子になるにはこのような資質がなければならない」などということ強調したいのではなく、「主イエスの言葉には一瞬にして人間の運命を変えてしまう力がある」ということ、そして「その力ある言葉を語る方がここにおられる」ということを伝えたいからです。

主イエスは「悔い改めよ、天の国は近づいた」と言われました。主イエスの出現こそ天の国の到来に他なりません。二組の兄弟たちを見て、語りかけた主イエスの後ろには、この「天の国」があるのです。二組の男たちの決断を即座に引き起こしたその力とは、この天の国からの力、この世を創造した神の言葉の力に他ならなかったのです。

神の国というと、なかなかイメージがつかないかもしれません。イエスさまについて従った弟子たちも、神の国が分かったからついて行ったわけではありません。むしろ、力ある言葉に突き動かされ、これから主イエスに従う中で、そして死と復活に立ち会う中で、神の国を見ることになったのです。

そうであるならばこの主日、わたしたちはあらためて、力ある主イエスの言葉を聴きたいと思います。悔い改めよ、と言われる主イエスは、わたしたち一人ひとりを見つけ、声をかけてくださいます。わたしたちに悔い改めるための力が無くとも、主イエスの声、み言葉にその力があります。わたしたちはただ、その主イエスのみ言葉に留まり、み言葉を胸に日々生きるならば、み言葉と共にある歩みのなかで、その力あるみ言葉によって変えられます。そうして、み言葉によって世界が変えられたとき、わたしたちは主イエスとともに、天の国を生きるものとされます。